

第8次足利市総合計画

令和4（2022）年度 実施状況

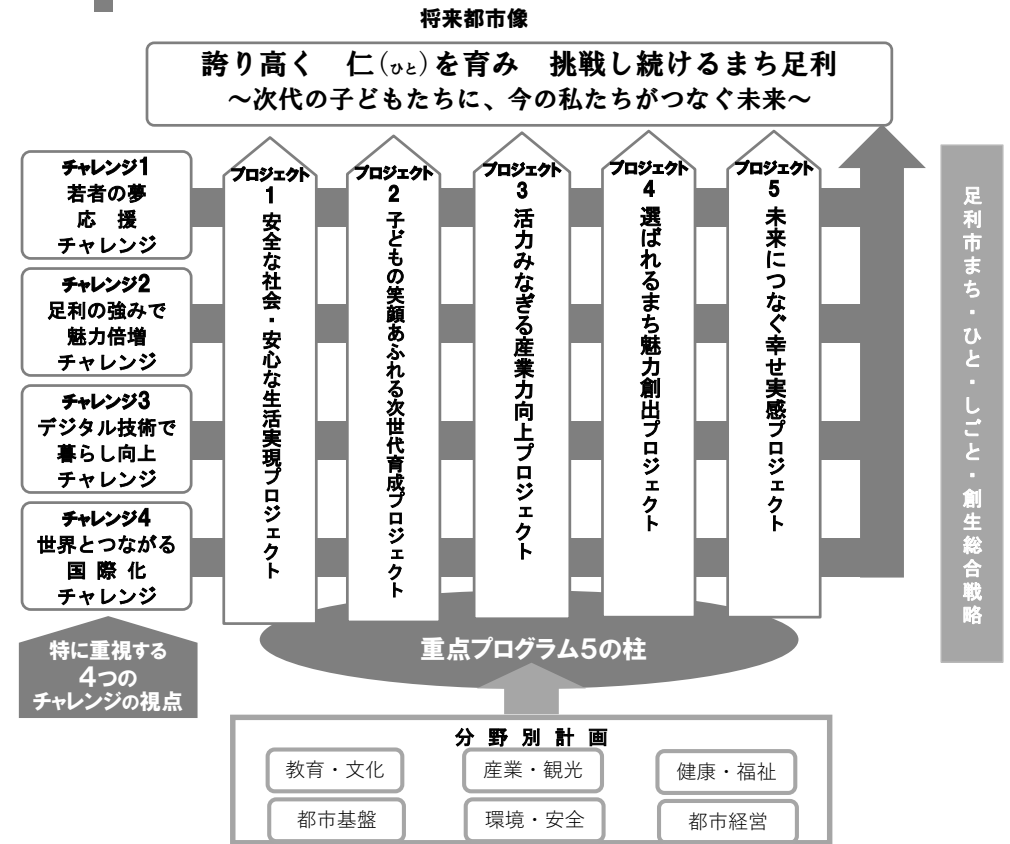
令和5(2023)年8月

足利市 総合政策部 総合政策課

目 次

各指標の達成状況	．．．	P. 3
重点プログラム 1 安全な社会・安心な生活実現プロジェクト	．．．	P. 4
重点プログラム 2 子どもの笑顔あふれる次世代育成プロジェクト	．．．	P. 5
重点プログラム 3 活みなぎる産業力向上プロジェクト	．．．	P. 6
重点プログラム 4 選ばれるまち魅力創出プロジェクト	．．．	P. 7
重点プログラム 5 未来につなぐ幸せ実感プロジェクト	．．．	P. 8
分野別計画 1	教育・文化	．．． P. 9
分野別計画 2	産業・観光	．．． P. 14
分野別計画 3	健康・福祉	．．． P. 17
分野別計画 4	都市基盤	．．． P. 21
分野別計画 5	環境・安全	．．． P. 25
分野別計画 6	都市経営	．．． P. 28
足利市SDGs推進事業	．．．	P. 32
地方創生推進交付金活用事業	．．．	P. 33

総合計画（基本計画）の体系



本資料について

第8次足利市総合計画に掲げる指標の令和4（2022）年度の進捗状況等について取りまとめたものです。また、計画における「重点プログラム」を「第2期足利市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置付けていることから、総合戦略の進捗状況等についても兼ねるものとなります。また、「足利市国土強靱化地域計画」における重要業績評価指標は、本計画の指標から抽出して設定しており、一体的に進捗管理を行うこととしています。

各指標の進捗状況

重点プログラム

項 目		指標数	★★★★ ★★	★★★ ★	★★★★	★★	★	-
1	安全な社会・安心な生活実現プロジェクト	5	3	0	1	0	0	1
2	子どもの笑顔あふれる次世代育成プロジェクト	4	2	1	1	0	0	0
3	活力みなぎる産業力向上プロジェクト	6	3	0	0	1	2	0
4	選ばれるまち魅力創出プロジェクト	5	2	3	0	0	0	0
5	未来につなぐ幸せ実感プロジェクト	6	5	0	1	0	0	0
合 計		26	15	4	3	1	2	1

★は各指標の進捗度を表すものです。進捗率の算出方法については以下のとおりです。

- ★5つ…進捗率が80%以上
- ★4つ…進捗率が60%以上、80%未満
- ★3つ…進捗率が40%以上、60%未満
- ★2つ…進捗率が20%以上、40%未満
- ★1つ…進捗率が20%未満

※「-」は、今年度の実績値がないもの、又は実績値及び目標値が順位のものであります。

分野別計画

項 目		指標数	★★★★ ★★	★★★ ★	★★★★	★★	★	-
1	教育・文化（全9節）	23	11	7	2	0	0	3
2	産業・観光（全5節）	14	6	3	0	3	2	0
3	健康・福祉（全6節）	18	5	7	4	1	0	1
4	都市基盤（全8節）	21	11	2	3	1	0	4
5	環境・安全（全6節）	13	9	0	2	1	0	1
6	都市経営（全6節）	18	14	2	2	0	0	0
合 計		107	56	21	13	6	2	9

進捗率(%)の算出方法は以下のとおりです。

$$\text{実績値} \div \text{目標値} \times 100$$

基準値より実績値を下げることを目標としている指標など一部については以下のとおり算出しています。

$$100 - ((\text{実績値} \div \text{目標値} \times 100) - 100)$$

※重点プログラムは、分野別計画の中から特に重点的、戦略的に取り組むべき施策を分野横断的に抽出し、目的別にまとめたものであることから、分野別計画の指標は重点プログラムの指標を包含しています。

活力みなぎる産業力向上プロジェクト

【ねらい】 産業力を向上させるため、産業団地の開発及び企業の誘致を進めるとともに、足利で夢を叶える創業支援や多様な働き方の促進、農林業の新たな担い手確保、先端技術の導入支援など、活力みなぎるまちをつくります。

【取組】	1 新たな産業団地の開発と企業誘致の推進	2 創業・就労・就農支援	3 産業の成長支援	4 地場製品のブランド化、販路の拡大
------	----------------------	--------------	-----------	--------------------

【主な事業】	◇ (仮称)あがた駅北産業団地開発事業 ◇ 新規就農塾開催事業	◇ あがた駅南産業団地企業誘致優遇策事業 ◇ グループチャレンジ応援事業	◇ 創業ステップアップ支援事業 ◇ 南部地域土地改良事業
--------	------------------------------------	---	---------------------------------

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の実績	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
製造品年間出荷額等	億円	令和3(2021)年 3,585	令和6(2024)年 3,926	91.3%	★★★★	新型コロナウイルス感染症などの影響が見られた。	中小企業の生産性向上につながる補助制度等による支援を行い、製造品年間出荷額等の増加に努める。
認定新規就農者数	人	3	計画期間 中累計 24	12.5%	★	関係機関(安足農業振興事務所、JA、農業委員会事務局)と協力し青年等就農計画作成の支援及び指導を行った。	新たに農業を始める方が認定新規就農者となり、早期の経営安定に向けたメリット措置が受けられるよう支援する。
海外取引などの出展企業・団体数	社	22	計画期間 中累計 60	36.7%	★★	新型コロナウイルス禍において、展示会等がオンラインで開催されるようになったことで出展企業等が増加した。	引き続きJETRO栃木等と連携し、市内企業の海外進出を支援する。
空き用地への年間立地件数	件	10	計画期間 中累計 8	125.0%	★★★★	施設老朽化やアフターコロナを見据えて生産体制の増強を図る企業による立地が多くあった。	市内産業系空き用地の情報収集と企業の誘導を図るとともに、立地企業に対する支援制度の周知に努める。
遊休資産等活用促進事業を利用した店舗立地	件	3	計画期間 中累計 20	15.0%	★	当該事業への相談および問合せ件数は26件であったが、補助対象外業種や補助対象外エリアのため、申請に至らないケースがあった。	コロナ禍で独立志向・起業意識が高まったこともあり、現在も問い合わせが多くあるため、引き続き補助制度の周知を行う。
主要園芸品目の令和2年度からの単収増加率(単収:10a当たりの収穫量)	%	127.1	110.0	115.5%	★★★★	トマトの多段採りやいちごの新品種導入等により、単収は向上している。特にトルコギキョウの出荷量が増加したことで、基準年と比較し27%の増となった。	近年、生産者の高齢化を理由とする離農が増加している。産地を維持していくため、栽培技術の向上を支援していく。

選ばれるまち魅力創出プロジェクト

【ねらい】 歴史や文化など、本市の豊富な地域資源を磨き上げ、その魅力を国内外に広く発信するとともに、市民が郷土を誇りに思う気持ちを醸成し、訪れたい、住みたい、住み続けたいと思われるまちをつくります。

【取組】 1 効果的な情報発信とシビックプライドの醸成 2 移住・定住の促進と関係人口の創出 3 足利ならではの魅力創出による観光誘客 4 歴史と文化を活用したまちづくり

【主な事業】 ◇ 移住・定住促進事業 ◇ 地域おこし協力隊事業 ◇ Ashikaga魅力発信事業
 ◇ 「足利氏のふるさと」ツーリズム観光誘客促進事業 ◇ 足利灯り物語創出事業 ◇ サイクルツーリズム推進事業

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
相談事業を経た年間移住者数	人	52	66	78.8%	★★★ ★	移住・定住相談センターを足利市駅構内に移転させ、専門の移住支援員を配置してきめ細やかに相談に応じることで、前年度比約2.3倍の相談者数となった。また、国の移住支援金も対象が拡充されたことで、移住者の増加につながった。	引き続き移住・定住相談センターを核に移住相談等に丁寧に応じるとともに、ホームページやSNSを活用した積極的な情報発信や、関係機関と連携した催しへの出展等を通じ、本市への移住の動機付けや意識の醸成を図る。
年間観光客入込数	万人	419	550	76.2%	★★★ ★	コロナ禍ではあったものの、あしかがフラワーパークのふじのはな物語や足利花火大会の3年ぶりの開催、「いちご一会とちぎ国体」などもあり観光客入込数が回復した。マイクロツーリズムにも力を入れ、足利灯り物語等の実施で近隣市町村からの誘客に努めた。	首都圏を中心とした国内向けPRの実施とインバウンド誘客の促進に向けた海外向けプロモーションを実施し、着物・鎧の着付け体験や、石畳の散策など質の高いメニューをアピールする。
市公式SNS登録者数	人	57,003	62,900	90.6%	★★★ ★★	X(旧Twitter)、LINEは順調に登録者数を伸ばすことができたが、Facebookについては横ばいとなっている。また、メルマガ配信は令和5(2023)年1月31日に配信を終了した。	SNSを活用した情報発信は重要度を増していることから、当面はX(旧Twitter)、Facebook、LINEを利用していくが、時代にあったツールの選択も重要であるため、今後、費用対効果などを検証し、情報発信ツールについて柔軟に対応する。
年間観光客宿泊数	人	44,871	48,000	93.5%	★★★ ★★	市内の大型イベントの開催による観光客入込数の増加に伴い、宿泊者数も回復した。足利灯り物語等の実施により滞在型観光への転換を図った。	国内向けPRと海外向けプロモーションにより観光客数の増加を図るとともに、足利のまちなみを生かした夜景観光に力を入れ、長期滞在型の観光地化を進める。
足利学校年間参観者数	人	131,214	180,000	72.9%	★★★ ★	令和4(2022)年度下半期、業務の一部を一般社団法人足利市観光協会に委託した結果、令和3(2021)年度の下半期と比較して、参観者が増加した。	今後も史跡足利学校の魅力を更に高め、引き続き参観者の増加につなげるため、観光誘客のノウハウがある一般社団法人足利市観光協会に継続して業務の一部を委託していく。

未来につなぐ幸せ実感プロジェクト

【ねらい】 持続可能な社会を未来につなぐため、環境問題に取り組むとともに、快適で便利な都市基盤の整備や、健全な都市経営を図り、子どもからお年寄りまで、誰もが生きがいを持って、いきいきと暮らし、幸せを実感できるまちをつくります。

【取組】 1 持続可能な社会の構築 2 快適な都市基盤の整備 3 誰もが生きがいをもっていきいきと暮らせる支援 4 持続可能な行財政運営

【主な事業】
 ◇ 新焼却施設等建設事業 ◇ (仮称)足利スマートIC関連事業 ◇ 大日西・中央土地区画整理事業
 ◇ 山辺西部第一・第二土地区画整理事業 ◇ 高血圧ゼロのまちづくり事業 ◇ ふるさと足利応援寄付金事業
 ◇ 公共施設等適正管理推進事業 ◇ デジタル戦略推進事業

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)			
温室効果ガスの年間排出量	千t-CO2	令和2(2020)年度 845	令和5(2023)年度 795	93.7% ★★★★ ★★	産業部門、業務その他部門、運輸部門での削減が進んでいることにより、年間排出量の減少につながった。	引き続きカーボンニュートラルの実現に向け、さらなる削減を目指す。特に令和5(2023)年度は、市民のCO2削減につながる行動への変容、習慣化を促すアプリを開発し、提供する。
健康寿命 上段:男性 下段:女性	歳	令和3(2021)年 79.04	令和6(2024)年 79.83	99.0% ★★★★ ★★	本市は脳血管疾患による死亡率が高い傾向にあるため、高血圧ゼロのまちづくり事業(あしかが減塩プロジェクト、健康ポイント「足すと」、健幸アンバサダー養成講座)を実施し、健康課題の改善に取り組んだ。	今後も食生活(減塩)の環境づくりと運動習慣定着の促進の事業を実施し、生活習慣の改善や健康意識の向上につながる取組を進める。
		令和3(2021)年 82.95	令和6(2024)年 83.63	99.2% ★★★★ ★★		
1人1日当たりの燃やせるごみ排出量	g	899	843	93.4% ★★★★ ★★	家庭系ごみは微増となったが、コロナ禍で事業系ごみが減少したことにより、対前年比微減となった。	家庭系ごみの減少のため、分ければ資源となる紙類の分別等の啓発に努め、ごみの発生抑制と資源化の徹底による排出量削減を図る。
生活路線バス利用者数	人	153,907	160,000	96.2% ★★★★ ★★	全体的な利用者数は回復傾向にあり、特に一般利用者はコロナ禍以前と同水準となっている。一方で高齢者等の利用は7割程度にとどまっている。	令和6(2024)年秋に中橋の架け替え工事に伴う通行止めが開始される予定であるため、交通渋滞の発生、運行経路の延長、運行時間の増加等の影響を考慮しつつ、代替路線の設定やダイヤ編成を行う。
廃止した公共施設及びその跡地の有効活用・処分累計件数	件	7	12	58.3% ★★★★	旧消防第16分団詰所跡地の売却や旧林業振興センター(巨石荘)を解体し、観光駐車場として活用するなど廃止した公共施設の処分を進めた。	市場性が高く需要が見込める廃止施設については、優先的に必要な調査を実施し、民間事業者等に対して積極的に売却処分を進め、売却処分が難しい物件においては、民間事業者等からの提案募集などにより、市の財政負担を抑えたかたちで民間事業者による利活用方法を検討する。
AI-OCR、RPAの累計導入事業数	件	29	26	111.5% ★★★★ ★★	利用の方法や効果について、着実に庁内で認識が広がり、活用に向けた検討の数は増加傾向にある。しかし、活用に向けて検討段階にある部署もあることやPRが不足していることから大幅な利用の増加につながらなかった。	AI-OCR及びRPAの活用方法について、現在の利用事例や実績を全庁周知し、各課での利用を積極的に模索していくことで、業務改革の手段を拡充していく。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針	
		R4(2022)	R7(2025)				
01 義務教育							
「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる」児童生徒の割合	⇒ 重点プログラム プロジェクト2 子どもの笑顔あふれる次世代育成プロジェクト			100.0%	★★★★ ★★	問題解決の課程を重視し、達成すべきねらいを明確にした授業を実施できるよう、学校訪問の際に指導助言を行った。	1時間ごとの評価規準をしっかりと定めることで、「何をどのように学び、何を身につけさせるか」を授業者が意識できるような指導助言に努める。
「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」児童生徒の割合	%	94.0	85.0	110.6%	★★★★ ★★	GIGAスクール構想による1人1台タブレット端末の授業における活用を推進し、ICTを自らの学びに生かす意識の定着に努めた。	教育DXの推進において、令和5(2023)年度からAIDリルを積極的に活用するなど、タブレット端末活用の場面を増やすことで、ICTを自らの学びに生かす意欲を高めることに努める。
いじめの解消率(小学3年生～中学3年生)	%	61.0	100.0	61.0%	★★★★ ★	いじめの積極的な認知を推奨しており、認知件数は増加しているものの、継続した丁寧な対応が求められることから相対的に解消率が低下していると考えられる。	児童生徒を日々注意深く観察するとともに、いじめ調査や教育相談から実態を把握し、いじめの未然防止や、早期発見、早期解決に努める。
生産者などとの会食会年間実施校数	校	0	5	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により会食会の実施を見送った。	非対面での黙食が実施されてから3年が経過しているため、コロナ禍前の給食にすぐに戻れない状況もあり、今後は、子どもたちの様子を見ながら、生産者などとの会食の実施を検討する。
02 生涯学習							
公民館、生涯学習センター、さいこうふれあいセンターの登録団体数	団体	413	474	87.1%	★★★★ ★★	登録団体の増加につなげるため、ライフステージに応じた多様な学習機会の提供・支援の取組として、コロナ禍においても感染予防対策を講じて対面方式の学級・講座を増やして実施した。	デジタル化が進む社会情勢の中、オンライン講座やYouTube体験講座等を取り入れることで、若年層の利用者の増加につなげ、学級・講座終了後の受講生のサークル化を推進する。
子どもの学び応援隊の登録者数	人	196	215	91.2%	★★★★ ★★	「子どもの学び応援隊」では、読み聞かせや学習支援などの学校での教育活動における子どもたちの学びを支援するボランティアを行った。登録者の高齢化やコロナ禍における活動機会の減少から登録者数の減少も見られた。	学校教育活動をはじめとした子どもたちの学びを支援するボランティアを引き続き募集する。小中学校に活用を促すとともに、教育活動等に参加するボランティアに登録を促す。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
市立図書館の年間貸出図書数	冊	287,893	298,000	96.6%	★★★★ ★★	施設の利用制限を緩和したことや、各種事業をコロナ禍以前同様に開催したことにより、入館者数、貸出図書数が増加した。足利市子ども読書活動推進計画(第二期)に基づき、お話し会や、企画展示など、子どもたちが本を身近に感じ、本に出会うきっかけづくりとなるよう各種事業に取り組んだ。	読書活動の拠点として、市民に利用しやすく親しまれる施設となるよう、各種文化事業の充実を図るとともに、本の企画展示や特設コーナーの設置などを実施する。子どもたちの読書意欲の向上のため、子ども向けの書籍の充実を図る。
03 青少年健全育成							
中学生地区活動ボランティアクラブ登録者数	人	576	850	67.8%	★★★★ ★	コロナ禍における地域行事の減少の影響で中学生ボランティアの登録者数は減少傾向にあるが、足利市青少年育成会連絡協議会の主催行事のほか、その他市の公式行事においても積極的に活動し、ボランティア研修会についても40人を超える生徒の参加があった。	引き続き、ボランティアを募集するとともに、地域における活動機会の設定を各地区の育成会をはじめ、関係団体等に呼びかけていく。また、研修の機会も設定し、ボランティアとしての資質向上を図る。
青少年育成指導者登録数	人	19	23	82.6%	★★★★ ★★	令和4(2022)年度は講習会を2回開催し、育成会役員に知識や技能の習得機会を提供できた。しかしながら、コロナ禍により主催行事や地区の行事が中止となり、青少年育成指導者の指導機会が減少傾向にある。	できるだけ多くの方が受講できるような工夫をし、講習会を継続するとともに、主催行事や地区の行事が復活しつつある中で、貴重な指導機会、活動の場となるように配慮し、指導員の育成を進める。
こども見守りのまちステッカー登録者数	人	736	700	105.1%	★★★★ ★★	両毛メートの広報紙に取組を掲載するなど事業者向けのステッカー配付に取り組んだ。特に地域連携包括協定を締結した事業所(日本郵便、セブンイレブン・ジャパン)については、配付と合わせ、地域の見守り活動に関するPRを行った。	地区によって配付状況に差があることから、配布枚数の少ない地域の啓発を強化し、更なる普及啓発を図る。

教育・文化

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針	
		R4(2022)	R7(2025)				
04 スポーツ・レクリエーション							
一般スポーツ教室修了率	%	84	90	93.3%	★★★★ ★★	一般20コース、中高年2コース、ファミリー2コース、ジュニア22コースの計46コースを実施。修了率が100%の種目もある一方、修了率が80%を下回る種目もあり、各種目において、修了率に大きな差がある。	修了率が低い教室の内容を見直していきながら、誰もが気軽に参加できるスポーツ教室を開催し、より多くの市民各層へ参加を促進する。
05 芸術・文化							
市民文化祭参加者数	人	3,928	5,250	74.8%	★★★★ ★	コロナ禍前の実績には及ばないものの、令和4(2022)年度は開催部門が前年度の17部門から23部門に回復し、参加者数も徐々に戻りつつある。	コロナ禍前と同様の25部門で文化祭を開催できる見込みであり、より多くの市民に参加いただけるように、X(旧Twitter)等のSNSを活用して市民文化祭事業の周知を図る。
子ども伝統文化体験教室参加人数	人	56	100	56.0%	★★★★	日本遺産の史跡足利学校や八木節振興センターなどを会場に、コロナ禍を考慮し少人数による開催とした。丁寧な指導の下、伝統文化に触れることができ、参加者からは好評であった。	3回目の開催となり、協力いただける伝統文化団体も増えつつある。より多くの子ども・保護者に参加してもらえるよう、開催日程や会場設定等について検討する。
市立美術館年間子ども参観者数	人	2,150	3,500	61.4%	★★★★ ★	「リアル(写実)のゆくえ展」、「あしかがの歴史と文化再発見！展」、「名画の旅展」など芸術・文化鑑賞の機会を提供した。	多くの方に来館いただける企画展を継続するとともに、美術作品はもとより美術館をより身近に感じてもらえるよう小中学生を対象とした「アート探検隊」事業等に取り組む。
06 文化財							
文化財関係講座などへの子どもの年間参加者数	人	54	40	135.0%	★★★★ ★★	「小学生のための考古学教室」や「あしかがの歴史と文化再発見！展」などの開催を通じて、子どもたちの文化財への理解促進を図った。	小学生を対象とした考古学教室や歴史講座等を継続して実施するとともに、保護者等を含む幅広い年齢層にも文化財への理解促進を図る。

教育・文化

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の取組	今後の方針	
		R4(2022)	R7(2025)					
足利学校年間参観者数	⇒ 重点プログラム プロジェクト4 選ばれるまち魅力創出プロジェクト				72.9%	★★★★ ★	令和4(2022)年度下半期、業務の一部を一般社団法人足利市観光協会に委託した結果、令和3(2021)年度の下半期と比較して、参観者が増加した。	今後も史跡足利学校の魅力を更に高め、引き続き参観者の増加につなげるため、観光誘客のノウハウがある一般社団法人足利市観光協会に継続して業務の一部を委託していく。
足利学校X(旧ツイッター)フォロワー数	人	3,870	5,000	77.4%	★★★★ ★	史跡足利学校のPRのため、1日1回を目標に投稿した結果、想定を上回る令和3(2021)年度末から約700増のフォロワー数を獲得した。	今後も1日1回を目標に投稿を続け、史跡足利学校の情報発信に努め、フォロワー数の増加につなげる。	
07 国内・国際交流								
多文化共生推進事業の年間参加者数	人	239	260	91.9%	★★★★ ★★	令和4(2022)年度は、会場の定員制限が緩和され、感染症対策を行い実施できたことから参加者が増加した。「インターナショナルデイ in Ashikaga 2022」などを開始し、国際交流を推進した。	地域における多文化共生を推進し、日本人住民と外国人住民の相互理解や交流を深めるため引き続き各種事業を実施していく。	
在住外国人の日本語講座年間延べ受講者数	人	690	1,700	40.6%	★★★★	令和3(2021)年度は新型コロナウイルス感染症の影響から休講せざるを得なかったが、令和4(2022)年度は感染対策を行いながら4教室108回実施した。	引き続き、日常生活に必要な日本語の初歩や漢字などを学ぶ場を提供していきたい。	
08 人権尊重								
日本は人権が尊重されている国であると思っている市民の割合(人権・男女共同参画に関する市民意識調査結果)	%	-	令和6(2024)年度 75.0	-	-	『「人権の花」運動』、「書道・ポスター等コンテスト」、「人権問題講演会」、「ひとtoひとのフォーラム足利」、人権擁護委員との連携による「人権教室」などを実施し、市民に人権が身近に感じられるよう啓発を行った。 ※ 調査は5年毎に実施。令和6(2024)年度に調査実施予定。	引き続き小・中学生、市民等に対して様々な事業を実施することにより、人権の尊重について啓発を進める。	

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)			
09 男女共同参画						
各種審議会などにおける女性の登用率	%	35.6	40.0	89.0%	★★★★ ★★	女性の登用率を向上させるため、団体や地域など市全体で男女共同参画を進めていくことが重要であることから、様々な機会をとらえて啓発を進める。
職場の人事配置や昇進で「平等、ある程度平等」と回答した人の割合(人権・男女共同参画に関する市民意識調査結果)	%	-	令和6(2024)年度 50.0	-	-	引き続き、働きやすい職場環境づくりのため、「女性活躍応援講座」や、「男女共同参画セミナー」を通じて、男女共同参画に関する意識啓発を行った。 ※ 調査は5年毎に実施。令和6(2024)年度に調査実施予定。
女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定が努力義務(従業員100人以下の事業所)である事業所のうち、同計画を策定している事業所数	事業所	10	16	62.5%	★★★★ ★	一般事業主行動計画の策定が努力義務となっている事業所に、多様な人材が活躍し、一人ひとりの人権を尊重しながら、豊かで活力ある男女共同参画社会の意識啓発を進める。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)			
01 工業						
製造品年間出荷額等		⇒ 重点プログラム プロジェクト3 活きみなぎる産業力向上プロジェクト		91.3% ★★★★ ★★	新型コロナウイルス感染症などの影響が見られた。	中小企業の生産性向上につながる補助制度等による支援を行い、製造品年間出荷額等の増加に努める。
海外取引などの出展企業・団体数		⇒ 重点プログラム プロジェクト3 活きみなぎる産業力向上プロジェクト		36.7% ★★	新型コロナウイルス禍において、展示会等がオンラインで開催されるようになったことで出展企業等が増加した。	引き続きジェトロ栃木等と連携し、市内企業の海外進出を支援する。
空き用地への年間立地件数		⇒ 重点プログラム プロジェクト3 活きみなぎる産業力向上プロジェクト		125.0% ★★★★ ★★	施設老朽化やアフターコロナを見据えて生産体制の増強を図る企業による立地が多くあった。	市内産業系空き用地の情報収集と企業の誘導を図るとともに、立地企業に対する支援制度の周知に努める。
02 商業						
地域商業団体活動事業数(年間補助件数)	件	6	20	30.0% ★★	上半期はコロナ禍の影響が大きく、例年開催されていたイベント(補助対象事業)が行われないケースがあったが、下半期には活発な商業促進活動が見られた。	アフターコロナとなりイベントの再開が期待されるため、補助制度周知を行い、商業団体活動の促進と商業活性化を図る。
遊休資産等活用促進事業を利用した店舗立地		⇒ 重点プログラム プロジェクト3 活きみなぎる産業力向上プロジェクト		15.0% ★	当該事業への相談および問合せ件数は26件であったが、補助対象外業種や補助対象外エリアのため、申請に至らないケースがあった。	コロナ禍で独立志向・起業意識が高まったこともあり、現在も問い合わせが多くあるため、引き続き補助制度の周知を行う。
03 農林業						
認定新規就農者数		⇒ 重点プログラム プロジェクト3 活きみなぎる産業力向上プロジェクト		12.5% ★	関係機関(安足農業振興事務所、JA、農業委員会事務局)と協力し青年等就農計画作成の支援及び指導を行った。	新たに農業を始める方が認定新規就農者となり、早期の経営安定に向けたメリット措置が受けられるよう支援する。

産業・観光

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
担い手への農地集積率	%	51.6	65.0	79.4%	★★★ ★	農地利用意向調査や地区座談会などを通して、農地の出し手と受け手のマッチングを実施した。	引き続き、農地利用意向調査や地区座談会等によるマッチングに努め、遊休農地の発生防止・解消を進める。
主要園芸品目の令和2年度からの単収増加率(単収:10a当たりの収穫量)	⇒ 重点プログラムプロジェクト3 活きみなぎる産業力向上プロジェクト		115.5%	★★★ ★★	トマトの多段採りやいちごの新品種導入等により、単収は向上している。特にトルコギキョウの出荷量が増加したことで、基準年と比較し27%の増となった。		近年、生産者の高齢化を理由とする離農が増加している。産地を維持していくため、栽培技術の向上を支援していく。
04 観光							
年間観光客入込数	⇒ 重点プログラムプロジェクト4 選ばれるまち魅力創出プロジェクト		76.2%	★★★ ★	コロナ禍ではあったものの、あしががフラワーパークのふじのはな物語や足利花火大会の3年ぶりの開催、「いちご一会とちぎ国体」などもあり観光客入込数が回復した。マイクロツーリズムにも力を入れ、足利灯り物語等の実施で近隣市町村からの誘客に努めた。		首都圏を中心とした国内向けPRの実施とインバウンド誘客の促進に向けた海外向けプロモーションを実施し、着物・鎧の着付け体験や、石畳の散策など質の高いメニューをアピールする。
年間観光客宿泊数	⇒ 重点プログラムプロジェクト4 選ばれるまち魅力創出プロジェクト		93.5%	★★★ ★★	市内の大型イベントの開催による観光客入込数の増加に伴い、宿泊者数も回復した。足利灯り物語等の実施により滞在型観光への転換を図った。		国内向けPRと海外向けプロモーションにより観光客数の増加を図るとともに、足利のまちなみを生かした夜景観光に力を入れ、長期滞在型の観光地化を進める。
年間着物着付け体験者数	人	226	630	35.9%	★★	既存在着物の修繕や着物及び甲冑着付け体験に必要な小物類等を購入し、受入れ態勢の整備を行った。また、着付け体験へのインセンティブを高めるため、オリジナルのノベルティを作成し、体験者の満足度向上に努めた。	着付け体験紹介や受付環境整備のためHPを更新し、体験事業の利用促進につながるPRを展開する。また、手入れしやすいポリエステル着物や浴衣、幼年向け甲冑に必要な上衣下衣等を購入し、さらなる受け入れ態勢の整備を行う。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)			
05 労働						
新規高卒就職者の市内就職率	%	20.9	30.0	69.7% ★★★★ ★	少子化・進学率増加の影響により、近県からの求人も増加しているため、管内企業への就職率は低下している。	企業説明会等を通じ、高校生・保護者・先生向けに市内企業を紹介する機会を増やすとともに、企業向けに採用セミナーを開催することで、管内就職率の向上を図る。
就労支援セミナー等年間受講者数	人	197	145	135.9% ★★★★ ★★	関係機関と連携し、セミナー等の開催・広報により、目標値の水準に達している。	引き続き、関係機関と連携しセミナー等の開催・広報を行い、受講者数の確保に努め、就労に繋げていきたい。
新規求人数	人	11,021	10,000	110.2% ★★★★ ★★	コロナ禍の影響により、採用控え等もあったが、徐々にコロナ禍前の求人数に戻りつつある。	求人数は目標値に達しているため、関係機関と連携し、人材不足の解消・雇用のミスマッチ解消に努める。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)			
01 子ども・子育て支援						
合計特殊出生率		⇒ 重点プログラム プロジェクト2 子どもの笑顔あふれる次世代育成プロジェクト		72.4% ★★★★★	全国的にコロナ禍により婚姻数や出生数は減少傾向にあり、令和4(2022)年の合計特殊出生率及び出生数は過去最低の数値となり、本市にとって少子化対策による人口減少は最重要課題となっている。	令和5(2023)年度予算において、切れ目のない伴走型支援の充実など子育て支援の充実を行うとともに、部局横断的な庁内体制を構築し、更なる対策の推進や事業の磨き上げを図る。
結婚支援センター登録者数		⇒ 重点プログラム プロジェクト2 子どもの笑顔あふれる次世代育成プロジェクト		57.2% ★★★★★	令和2(2020)年4月のセンター開所後に入会した方々が2年間の登録期間を満了したことで、更新を行わない退会者等による登録者数の減少が生じた。利用者の利便性向上やプライバシーに配慮するため、令和4(2022)年9月にセンターを移転した。	令和4(2022)年度のセンター移転に伴い、結婚支援に専属で取り組むための外部委託を実施しており、さらなるサービスや利便性の向上に努めるとともに、対面でのイベント等も含めた各種事業を展開し、新たな会員確保につなげる。
放課後児童クラブ設置数		⇒ 重点プログラム プロジェクト2 子どもの笑顔あふれる次世代育成プロジェクト		94.7% ★★★★★	利用希望者が多いクラブについて、クラブを分割(1クラブ増設)した。	地域ごとの利用希望児童数を見ながら必要な地区にクラブを設置されるよう状況を確認しながら適正な配置に努める。
ファミリー・サポート・センター年間利用者数	人	645	1,040	62.0% ★★★★★	安心して子育てができるよう会員相互の信頼関係の構築に努めた。利用者の条件に合った会員を紹介し、育児負担やストレスの軽減につながるよう活動を進めてきた。	通院、習い事の送迎、買い物、リフレッシュなど利用内容は多岐にわたっている。今後も保護者のニーズを受け入れながら利用者の状況を把握し、育児負担の軽減につながる支援をしていく。
02 障がい者福祉						
障がい者基幹相談支援センター年間相談件数	件	4,871	9,500	51.3% ★★★★★	コロナ禍でセンターへ来所する方が大きく減少したが、相談件数は徐々に増加しつつある。	電話やメールでも相談ができることを周知するとともに、愛称等を付け、より多くの人に知ってもらい、相談しやすい環境をつくる。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
児童発達支援等サービス年間利用件数	件	6,277	7,890	79.6%	★★★ ★	障害福祉サービスの周知により、放課後等デイサービス利用者数の増加につながった。	利用する際に参考となるよう「あしかが障がい児通所事業所ガイドブック」をホームページに掲載し、個々のケースに応じたきめ細やかな対応ができるよう周知する。
就労系サービス年間利用件数	件	6,314	9,185	68.7%	★★★ ★	障害福祉サービスの周知により、就労継続支援B型利用者数の増加につながった。	サービスの内容等が記載された「就労系ガイドブック」をホームページに掲載し、個々のケースに応じたきめ細やかなサービス利用ができるよう周知する。
03 高齢者福祉							
ささえ愛ボランティア登録者数	人	260	688	37.8%	★★	新規登録者は25名であったが、高齢等を理由に辞退希望者が52名となり、年度末の最終的な登録者は260名となった。登録者数を増やし、地域での支え合い活動を充実させることを目的に、登録者を対象にアンケートを実施した。活動についてマッチングの手段の希望媒体は電話が多い点が把握された。	出前講座による養成講座を広げ、ボランティアの人数増加に働きかけていく。また、マッチング方法等、よりボランティア活動がしやすいよう体制づくりを検討する。ボランティア登録者の資格や特技等、高齢者自身の持っている力を生かせるような事業展開を実施していく。
認知症サポーター養成講座累計受講者数	人	22,516	30,000	75.1%	★★★ ★	コロナ禍であり、学校での実施が減少していたが、今年度は小学校2校、中学校4校の再開があり、全18回、延受講者数803名となった。	地域包括支援センターと連携を図り、学校や地域、企業での講座を引き続き実施していく。また、認知症に優しい街づくりのため、認知症地域支援推進員と共に、地域の企業へ養成講座をPRしていく。
介護施設等入所定員	人	1,932	2,032	95.1%	★★★ ★★	令和3(2021)年度中に特定施設入居者生活介護施設(50床)及び介護老人福祉施設(50床)について公募を実施した。前者については応募があり、令和5(2023)年4月開所に向け着工したが、後者については、令和4年度にも2回公募を実施したが、応募がなかった。	今後、令和6(2024)年度から始まるゴールドプラン21第9期計画策定の中で、定員確保が可能な方策について、各委員の意見を伺いながら検討していく。

健康・福祉

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針	
		R4(2022)	R7(2025)				
04 地域福祉							
地区社会福祉協議会支部数	支部	186	200	93.0%	★★★★ ★★	地域ごとの考え方の違いもあるが、地域福祉を支える側の高齢化も進んでおり、支部設置への理解が進まない状況である。	地区社協支部の存在は、地域共生社会を実現するためにも必要であることから、未設置地区での支部設置に向けて引き続き働きかけていきたい。
就労により生活保護から自立した年間世帯数	世帯	9	22	40.9%	★★★★	コロナ禍等で求職状況が厳しい中、ハローワーク等と連携し就労支援を行い、被保護者の就労につなげた。	就労支援員による就労指導及びハローワーク等と連携による就労支援を行い、引き続き被保護者の就労につなげる。
05 保健・医療							
健康寿命 上段:男性 下段:女性	⇒ 重点プログラム プロジェクト5 未来につなぐ幸せ実感プロジェクト			99.0%	★★★★ ★★	本市は脳血管疾患による死亡率が高い傾向にあるため、高血圧ゼロのまちづくり事業(あしかが減塩プロジェクト、健康ポイント「足すと」、健幸アンバサダー養成講座)を実施し、健康課題の改善に取り組んだ。	今後も食生活(減塩)の環境づくりと運動習慣定着の促進の事業を実施し、生活習慣の改善や健康意識の向上につながる取組を進める。
				99.2%	★★★★ ★★		
人口10万人当たりの脳血管疾患年間死亡者数県内市別順位	位/14市	令和3(2021)年 11	令和6(2024)年 5	-	-	本市は脳血管疾患の年間死亡者数順位が低い傾向にあり、市民の健康づくり促進のため高血圧ゼロのまちづくり事業を実施した。	今後も生活習慣の改善や健康意識の向上につながる環境づくりを進める。
健幸アンバサダー登録者数	人	365	600	60.8%	★★★★ ★	ヘルスケア関係の保険外交員を主な対象として、健幸アンバサダー養成講座を実施し、講座参加者数は増加している。	講座対象者を学生や事業所に広げるとともに、新たにフォロー講座を開催し活動の活発化を進める。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針	
		R4(2022)	R7(2025)				
06 社会保険							
特定健康診査受診率(国民健康保険被保険者)	%	令和3(2021)年 32.0	令和6(2024)年 46.0	69.6%	★★★★ ★	コロナ禍では受診率が低下したが、未受診者への受診勧奨通知の送付や公民館学級等において受診の啓発を行い、受診率が0.8ポイント増加した。	引き続き受診の啓発を実施するとともに、医師会と連携し、かかりつけ医から受診を促す取組を実施する。
特定保健指導実施率(国民健康保険被保険者)	%	令和3(2021)年 20.9	令和6(2024)年 37.0	56.5%	★★★★	特定健診は7割が個別健診であるが、特定健診後の特定保健指導実施率は、集団健診受診者が8割に対し、個別健診受診者は1割にとどまっており、個別健診受診者の実施率向上が必要である。そのため、個別健診受診者に対し、医師からの結果説明時の勧奨を医師会に依頼するとともに、医療機関における初回面接実施機関を増やす取り組みを行った。	引き続き医師会の協力を得ながら、個別健診受診者の保健指導を受ける機会を増やすとともに、集団健診受診者と個別健診受診者に、保健指導を受けるよう勧奨し、実施率の向上を図る。また、国民健康保険加入者の人間ドック利用時にチラシを配布するなど、保健指導の認知度を上げる周知を図る。
ジェネリック医薬品利用率(国民健康保険被保険者)	%	83.3	90.0	92.6%	★★★★ ★★	令和3(2021)年度に全国的なジェネリック医薬品の供給不足があったが、本年度にはジェネリック医薬品差額通知書の送付、保険証更新時のジェネリック医薬品お願いシールの同封、公民館学級等を活用した啓発を行い、利用率が0.3ポイント上昇した。	引き続き様々な手法でジェネリック医薬品利用の啓発を行い、利用率向上を図る。

都市基盤

※「01 土地利用」における指標の設定はありません。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
02 都市景観							
建築・景観賞累計応募件数	件	403	432	93.3%	★★★★ ★★	良好な都市景観の形成やまちづくりに対する市民意識の高揚などを図るための顕彰制度であり、令和2(2020)年から隔年で開催され、応募件数は累計403件となった。	引き続き、歴史・文化・自然と人が調和し、足利らしい景観にあふれた魅力ある美しいまちづくりを目指す。
歴史的まちなみ修景補助累計件数	件	54	64	84.4%	★★★★ ★★	歴史的なまちなみや魅力的な都市景観の整備・創出を促進するため、新築や改築時などにまちなみ修景基準に沿った意匠や形態に補助する制度であるが、コロナ禍や原材料費の高騰などの影響もあり、新築や改築等の申請がなかった。	地域全体で歴史的雰囲気をもとにした魅力あるまちなみの整備・創出に向けて取り組む。
03 市街地整備							
土地区画整理事業施行中地区道路整備率	%	41.8	42.5	98.4%	★★★★ ★★	山辺西部第一・第二土地区画整理事業において、道路整備を計画通りに実施した。	適切な土地利用推進のため、計画的な家屋移転を進め、道路整備を実施していく。
土地区画整理事業施行中地区家屋移転戸数	戸	10	27	37.0%	★★	積極的な移転交渉により計画通りの家屋移転を実施した。	適切な土地利用推進のため、計画通りに家屋移転を進め、事業の進捗を図る。
04 道路・交通網							
市道の改良率	%	61.1	62.0	98.5%	★★★★ ★★	事業計画どおりに進捗しているものの、橋りょうなどの大型構造物の建設に集中的に投資しており、整備延長は伸びなかった。	整備の優先順位はもとより、整備効率も考慮し、改良率の向上を目指して整備を進める。
地域公共交通計画の策定	件	-	1	-	-	計画策定に向けた調査や、公共交通関係者で組織する足利市地域公共交通会議における協議を実施し計画(案)を作成した。	計画(案)について、市議会への報告及びパブリックコメントを実施し、計画を完成させる。完成後は計画に記載の基本方針や取組に基づき、進捗管理を行う。

都市基盤

※「01 土地利用」における指標の設定はありません。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針	
		R4(2022)	R7(2025)				
生活路線バス利用者数	⇒ 重点プログラム プロジェクト5 未来につなぐ幸せ実感プロジェクト			96.2%	★★★★ ★★	全体的な利用者数は回復傾向にあり、特に一般利用者はコロナ禍以前と同水準となっている。一方で高齢者等の利用は7割程度にとどまっている。	令和6(2024)年秋に中橋の架け替え工事に伴う通行止めが開始される予定であるため、交通渋滞の発生、運行経路の延長、運行時間の増加等の影響を考慮しつつ、代替路線の設定やダイヤ編成を行う。
スマートモビリティの実証実験	件	1	2	50.0%	★★★★	栃木県の無人自動運転移動サービス導入検証事業(栃木県ABCプロジェクト)に実験実施を提案し、実証実験箇所の一つとして選定され、令和5(2023)年3月に史跡足利学校や鏝阿寺、織姫神社などの観光資源を周回する自動運転実証実験を実施した。	実証実験結果を踏まえ、自動運転技術のメリット・デメリットについて検討を進める。その後、自動運転技術の普及や法整備の状況を見極めながら、技術活用を検討を進める。
05 公園・緑地							
1人当たりの公園面積	m ² /人	13.60	13.50	100.7%	★★★★ ★★	公園の整備面積に増減はなかったが、人口減少に伴い、1人当たりの公園面積は増加した。	今後も公園面積を維持するとともに土地区画整理事業などの基盤整備にあわせて、公園の整備に取り組む。
改築更新した公園施設の割合 (対象公園施設数87施設)	%	43.7 (38施設)	100 (87施設)	43.7%	★★★★	公園施設の長寿命化計画に基づき、計画的に17施設の更新を実施した。	引き続き長寿命化計画に基づいた公園施設の改築や更新に取り組み、適切な公園の維持管理を図る。
公募設置管理制度(Park-PFI)を導入した都市公園整備	箇所	-	1	-	-	公募対象公園施設等の設置等予定者を選定した。	今後は基本協定を締結し、令和5(2023)年11月から工事を実施し、令和6(2024)年4月より供用開始予定である。
ガーデニング講習会年間参加者数	人	559	800	69.9%	★★★★ ★	新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、講習会を19回開催することができ、参加者数も回復傾向にある。	引き続き、地域の緑化推進のため、講習会の回数や内容を見直すなどし、参加人数の増加を図る。

※「01 土地利用」における指標の設定はありません。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
公園・街路樹愛護会数	団体	72	72	100.0%	★★★★ ★★	令和3(2021)年度の公園の新設に伴い、愛護団体が増加した。公園の除草や花植えなど市民参加による維持管理を行った。	今後も公園愛護団体と連携を取りながら、魅力ある公園づくりに取り組む。
06 河川							
一般排水路等整備率	%	41.8	42.0	99.5%	★★★★ ★★	排水路整備を計画どおりに実施した。	引き続き、優先順位を検討しながら、着実な進捗を図る。
河川愛護会数	団体	51	52	98.1%	★★★★ ★★	高齢化等の理由により活動が困難になっている既存団体が増加しているため、愛護活動が継続できるよう働きかけを行った。	既存団体が継続できるよう支援するとともに、新規団体の設立を促進し、市民による河川美化及び河川愛護活動を進める。
河川空間のオープン化	箇所	-	1	-	-	公募対象公園施設等の設置等予定者を選定した。	今後は基本協定を締結し、令和5(2023)年11月から工事を実施し、令和6(2024)年4月より供用開始予定である。
07 住宅							
特定空家等累計解体件数	⇒ 重点プログラム プロジェクト1 安全な社会・安心な生活実現プロジェクト			100.0%	★★★★ ★★	倒壊等の恐れがある危険な空家等を36件解体した(解体費補助:28件、自主解体:8件)。累計128件が解決済みとなった。	優良な空家の利活用を促進するとともに、危険な空家については、所有者へ改善の働きかけを行う。
市営住宅管理戸数	戸	2,154	2,086	96.7%	★★★★ ★★	管理戸数の変化はないものの、老朽化している市営住宅の入居者の移転等を実施した。	引き続き、足利市公共施設再編計画や足利市公営住宅等長寿命化計画に基づき、集約化等を進め、管理戸数の減少に努めていく。

※「01 土地利用」における指標の設定はありません。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の実績	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)			
08 上下水道						
浄水場の耐震化施設数	施設	1	2	50.0%	★★★★	令和2(2020)年度から実施していた中川浄水場ポンプ井耐震補強工事が、令和4(2022)年度に完成した。 令和5(2023)年度より2か年にわたり、大前浄水場耐震補強工事を実施する予定である。
下水処理施設数	施設	3	2	-	-	下水道事業全体計画及び事業計画の変更を実施し、施設の統合に必要な事務手続きを行った。 施設の統合に向けて、引き続き下水道事業全体計画及び事業計画に係る事務手続きを進める。
下水道管きよの改築延長	m	29,360	37,824	77.6%	★★★★ ★	計画に基づき、下水道管きよの改築による延長を行った。 安心・安全な下水道サービスを提供するため、継続して下水道管きよの改築を行う。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針	
		R4(2022)	R7(2025)				
01 地球環境							
温室効果ガスの年間排出量	⇒ 重点プログラム プロジェクト5 未来につなぐ幸せ実感プロジェクト		93.7%	★★★★ ★★	産業部門、業務その他部門、運輸部門での削減が進んでいることにより、年間排出量の減少につながった。	引き続きカーボンニュートラルの実現に向け、さらなる削減を目指す。特に令和5(2023)年度は、市民のCO2削減につながる行動への変容、習慣化を促すアプリを開発し、提供する。	
環境観察会年間参加者数	人	134	300	44.7%	★★★★	コロナ禍で感染症対策を行いながら、観察会を開催した。しかし、屋外型の観察会については、悪天候のため中止せざるを得ないものもあった。	昨年度の天候不順による講座中止の経験を踏まえ、予備日を設定する。また、講座内容もマンネリ化を防ぐため、市民ニーズのない講座は廃止し、新たな講座を導入する。今年度の市民ニーズを把握し、さらなる改善を図る。
公害苦情年間件数	件	8	30	173.3%	★★★★ ★★	相談件数は毎年50件程度で変化はみられず、近隣トラブルの相談が増えているものの、公害関係法令に係る公害苦情に該当する内容は減少した。	相談者から丁寧に聞き取りを行い、公害関係法令に則って適正に対処する。
02 環境衛生							
ごみの年間総排出量	トン	54,557	52,394	95.9%	★★★★ ★★	コロナ禍等による事業活動の縮小により事業系ごみが減少したことから、ごみの総排出量の減少した。	アフターコロナで経済活動が活発化してくると、事業系ごみの排出量が増える可能性がある。引き続きごみ減量・適正な排出について啓発していく。
1人1日当たりの燃やせるごみ排出量	⇒ 重点プログラム プロジェクト5 未来につなぐ幸せ実感プロジェクト		93.4%	★★★★ ★★	家庭系ごみは微増となったが、コロナ禍で事業系ごみが減少したことにより、対前年比微減となった。	家庭系ごみの減少のため、分ければ資源となる紙類の分別等の啓発に努め、ごみの発生抑制と資源化の徹底による排出量削減を図る。	

環境・安全

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
生活排水処理人口普及率	%	90.5	93.0	97.3%	★★★★ ★★	下水道未普及解消のため、管きよ整備を行うとともに、補助制度により単独浄化槽・汲み取り便槽から合併処理浄化槽への転換を促進した。	継続して管きよの整備を行うとともに、し尿と生活排水の適正な処理を進め、公共用水域の水質保全に取り組みたい。
03 地域防災・危機管理							
地区防災計画策定自主防災会数	⇒ 重点プログラム プロジェクト1 安全な社会・安心な生活実現プロジェクト			45.0%	★★★	機会あるごとに地区防災計画の必要性について自主防災会に対し啓発を行ったことで、計画策定についての理解が広がり、令和3(2021)年度よりも策定数が増えた。	地域の防災講話等で計画策定の重要性や市の支援制度について説明し、策定自主防災会数を増やす。
防災リーダー認定者数	⇒ 重点プログラム プロジェクト1 安全な社会・安心な生活実現プロジェクト			99.2%	★★★★ ★★	地域住民の防災意識向上や研修内容等の見直しにより、参加者及び認定者が増加した。	地域防災力向上のため継続的に研修会を開催し、認定者数を増やす。
04 消防・救急							
消防防災情報メール登録者数	⇒ 重点プログラム プロジェクト1 安全な社会・安心な生活実現プロジェクト			83.0%	★★★★ ★★	広報手段を増加し(広報あしかがみや市ホームページ、SNS、チラシなど)、本サービスの利用を促進した。	引き続き本サービス利用促進のための広報を行い、広報手段や機会についても検討する。
住宅用火災警報器の設置率(世帯数)	% (世帯)	77 (51,695)	85 (52,800)	90.6%	★★★★ ★★	コロナ禍により、対面でのPR活動が減少したが、感染対策を徹底し可能な限りPR活動を行った結果、設置率は増加傾向にある。	コロナ禍で実施できなかったイベントが再開するため、イベント等の機会にPR活動を実施する。また、PRにあたっては住宅防火を推進する足利市女性防火クラブ連絡協議会などと連携して取り組む。

環境・安全

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
心肺停止傷病者に対して市民による心肺蘇生の実施率	%	39.1	40.0	97.8%	★★★★ ★★	コロナ禍では、人との接触が避けられており、市民による心肺蘇生実施率が下がった。しかし、徐々に制限が緩和され、積極的な応急手当が実施されるようになった。	応急手当講習等を実施し、市民への応急手当の普及啓発を進めたい。
05 交通安全・防犯							
人口1万人当たりの人身交通事故件数県内市別順位	⇒ 重点プログラム プロジェクト1 安全な社会・安心な生活実現プロジェクト		-	-	-	人身事故件数について令和3(2021)年度は309件、令和4(2022)年度は290件となり、比較すると19件減少したが、県内市別順位は9位と変わらなかった。	関係機関・団体と連携して、交通安全思想の普及や各種交通安全活動を推進する。
06 消費生活							
消費者教育年間受講者数	人	599	1,700	35.2%	★★	出前講座の回数は令和3(2021)年度よりも増加したが、1回あたりの受講者が多い学生対象の講座がコロナ禍により減少したことから全体の受講者数は減少した。	若者への消費者教育推進のため、学校等への出前講座の実施を、通常の対面での実施方法に加え、オンライン形式や短時間のミニ講座等、要望に応じた方法による講座を実施する。

都市経営

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針	
		R4(2022)	R7(2025)				
01 市民参画・市民活動							
ホームページ累計アクセス数	件	36,542,034	34,528,000	105.8%	★★★★ ★★	ワクチン接種予約によるアクセスが落ち着いたことにより、単年度のアクセス数は減少したが、SNSからHPへの誘導が功を奏しており、順調にアクセス数は増加傾向にある。	令和4(2022)年度の市民アンケートで初めて広報紙の閲読率よりHPの閲覧率が上回った。情報入手方法として紙媒体からネットへと移りつつあるため、今後もHPの掲載情報を充実させ、SNSを有効的に活用しHPへ誘導をしていく。
市民と行政との協働年間事業数	件	148	160	92.5%	★★★★ ★★	新たな団体と連携を図る取組や若者目線で魅力発信を行う協働事業が始まった一方で、既存事業で終了したものもあり、前年度比で5事業の減となった。	市民参加による協働のまちづくりを目指して、市民と市役所各部署の連携による協働事業を進めていきたい。
02 移住・定住							
市公式SNS登録者数		⇒ 重点プログラム プロジェクト4 選ばれるまち魅力創出プロジェクト		90.6%	★★★★ ★★	X(旧Twitter)、LINEは順調に登録者数を伸ばすことができたが、Facebookについては横ばいとなっている。また、メルマガ配信は令和5(2023)年1月31日に配信を終了した。	SNSを活用した情報発信は重要度を増していることから、当面はX(旧Twitter)、Facebook、LINEを利用していくが、時代にあったツールの選択も重要であるため、今後、費用対効果などを検証し、情報発信ツールについて柔軟に対応する。
相談事業を経た年間移住者数		⇒ 重点プログラム プロジェクト4 選ばれるまち魅力創出プロジェクト		78.8%	★★★★ ★	移住・定住相談センターを足利市駅構内に移転させ、専門の移住支援員を配置してきめ細やかに相談に応じることで、前年度比約2.3倍の相談者数となった。また、国の移住支援金も対象が拡充されたことで、移住者の増加につながった。	引き続き移住・定住相談センターを核に移住相談等に丁寧に応じるとともに、ホームページやSNSを活用した積極的な情報発信や、関係機関と連携した催しへの出展等を通じ、本市への移住の動機付けや意識の醸成を図る。
03 行財政運営							
行政手続における押印廃止率	%	97.9	99.0以上	98.9%	★★★★ ★★	見直し対象とした2,531件の手続のうち、約98パーセントに当たる2,478件の手続について、押印を廃止した。	市民サービスのさらなる向上と効率化を図るため、今後も引き続き、押印原則の見直しを行い、行政手続及び事務の簡素化を推進する。

都市経営

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
女性管理監督職員の率	%	21.4	25.0以上	85.6%	★★★★ ★★	男女共同参画社会の実現に向け、新たに課長級に2人、課長補佐級に4人、主幹級に2人、副主幹級に11人の女性職員を昇任させ、管理監督職である副主幹級以上の女性職員の割合は21.4%となった。	引き続き、性別にとらわれない適材適所の登用・配置を行う。
経常収支比率(普通会計)	%	88.2	95.0以内	100.0%	★★★★ ★★	ふるさと納税等の取組や繰出金の減少により、経常経費充当一般財源が減少したものの、臨時財政対策債等の経常一般財源の減少額が大きかったため、比率が上昇した。	今後も経常経費の見直しと経常一般財源の増加に取り組む。
実質公債費比率(3か年平均)	%	4.7	8.0以内	100.0%	★★★★ ★★	市債については、返す以上に借りないという方針を堅持した。	大型公共施設の更新により、市債残高は増加する見込みである。その他の普通建設事業費で、市債の抑制を図り、目標値以内を維持する。
財政調整基金残高が標準財政規模に占める割合	%	14.7	5.0以上	100.0%	★★★★ ★★	市税や地方交付税の増収等により、決算剰余金が例年より多くなり、基金への積み立てが行えた。	歳入確保と歳出の見直しにより、基金残高の維持に努める。
04 デジタル戦略							
AI-OCR、RPAの累計導入事業数	⇒ 重点プログラムプロジェクト5 未来につなぐ幸せ実感プロジェクト			111.5%	★★★★ ★★	利用の方法や効果について、着実に庁内で認識が広がり、活用に向けた検討の数は増加傾向にある。しかし、活用に向けて検討段階にある部署もあることやPRが不足していることから大幅な利用の増加につながらなかった。	AI-OCR及びRPAの活用方法について、現在の利用事例や実績を全庁周知し、各課での利用を積極的に模索していくことで、業務改革の手段を拡充していく。
スマートフォン教室年間受講者数	人	85	90	94.4%	★★★★ ★★	当日キャンセルの発生により、年間受講者数の数値目標達成には至らなかったが、大きなトラブルはなく、当初の予定どおり年間3回の講座を開催することができた。	受講者アンケートの結果では講座内容に対する満足度が高く、定員以上の応募があることやアンケートにおける「受講したい講座」の回答結果を参考に、内容の拡充や開催回数の増加や内容の拡充を検討する。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況		令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)				
足利市LINE公式アカウント登録数	人	35,226	30,000	117.4%	★★★★ ★★	毎日20人程度の登録があり、足利花火大会をはじめとした各種イベントの専用ページを作成するなど、登録者の確保に注力した。	新型コロナウイルス感染症も落ち着いたため、新型コロナウイルス感染症に関するリッチメニューを廃止したことから、時事に沿った内容やイベント等の広報に活用して、更なる登録者を確保をする。
05 公共施設マネジメント							
足利市公共施設再編計画に基づく供用廃止施設の累計延床面積	m ²	18,588.38	27,500.00	67.6%	★★★★ ★	令和4(2022)年度は大前保育所、田中町市営住宅、江川町市営住宅、北郷小学校児童クラブの供用を廃止した。	引き続き、公共施設等総合管理計画など各種計画に基づいて、施設総量の適正化に向けた取組を着実に進める。
個別施設計画の累計策定数	件	20	20	100.0%	★★★★ ★★	公立保育所等の再編を計画的に進めるため、保育所等整備後期計画を策定した。	個別施設計画等が未策定の分野について、早期の策定促進及び策定支援等を行う。
サウンディング及びトライアル・サウンディングの年間実施回数	件	3	3	100.0%	★★★★ ★★	令和4(2022)年度は旧市民活動センターと旧御厨テニスコートの跡地活用、また、建設中の新斎場の運営手法に関するサウンディング調査を実施した。	引き続き、公共施設の跡地活用等、様々な場面でサウンディング調査の有効活用に努めるほか、トライアル・サウンディングに関する庁内の理解を深め、施設所管課等と連携しながら、実施できるように努める。
廃止した公共施設及びその跡地の有効活用・処分累計件数	⇒ 重点プログラム プロジェクト5 未来につなぐ幸せ実感プロジェクト			58.3%	★★★★	旧消防第16分団詰所跡地の売却や旧林業振興センター(巨石荘)を解体し、観光駐車場として活用するなど廃止した公共施設の処分を進めた。	市場性が高く需要が見込める廃止施設については、優先的に必要な調査を実施し、民間事業者等に対して積極的に売却処分を進め、売却処分が難しい物件においては、民間事業者等からの提案募集などにより、市の財政負担を抑えたかたちで民間事業者による利活用方法を検討する。

指標名	単位	実績値	目標値	進捗状況	令和4(2022)年度の取組	今後の方針
		R4(2022)	R7(2025)			
06 広域行政						
両毛広域都市圏公共施設の相互利用者数	人	令和3 (2021)年度 139,024	令和6 (2024)年度 300,000	46.3% ★★★	コロナ禍で各施設でのイベント開催が見送られるなどにより利用者数が大きく落ち込んだ。	今後はイベントの再開など施設の利用機会の増加が見込まれるので、今後も両毛広域都市圏総合整備推進協議会のHP等で情報発信を行う。
両毛交流イベントの参加者数	人	4,332	2,500	173.3% ★★★ ★★	3年ぶりとなる「りょうもうグルメスタンプラリー」を開催した。手軽に参加いただけるようデジタルスタンプラリー形式とし、多くの方に参加いただけた。	多くのエントリーをいただいた一方、抽選の応募まで至った割合が低いため、両毛地域の市町で連携し、広報誌やHP等で積極的にPRを行い応募者の増加を図る。

足利市SDGs推進事業(令和4年度実績)

(趣 旨)

「持続可能な開発目標」(以下「SDGs」という。)は、2015年に国連で採択された国際社会共通の目標です。国においては、SDGsの推進を地方創生の原動力と位置づけ、地方自治体に対して、SDGsの一層の浸透や、多様な関係者との連携など、積極的な推進を求めています。

本市では、庁内一丸となって総合的かつ効果的にSDGsを推進するため、令和4(2022)年3月1日に「足利市SDGs推進本部」を設置したところであり、第8次足利市総合計画と一体的な施策の推進及び進捗管理を図っていくこととしております。

17の目標		事業数	主な事業名	17の目標		事業数	主な事業名
	全般普及	3	職員研修 企業研修・セミナー		9 産業と技術革新の基盤をつくろう	9	市内企業等地域人材確保事業 (仮称)あがた駅北産業団地開発事業
	1 貧困をなくそう	2	子ども医療費助成事業 就学援助費補助金		10 人や国の不平等をなくそう	19	人権講演会 多文化共生推進事業
	2 飢餓をゼロに	3	3R・食品ロス 主要園芸品目の単収増加への取組		11 住み続けられるまちづくりを	51	里山地域活性化事業 「足利氏のふるさと」ツーリズム観光誘客促進事業
	3 すべての人に健康と福祉を	33	子育て支援コーディネート事業 スマホ版健康ポイント事業「足すと」		12 つくる責任つかう責任	14	グリーン購入 制服リサイクルバンク
	4 質の高い教育をみんなに	34	放課後子ども教室 小学生のための考古学教室		13 気候変動に具体的な対策を	15	環境観察会 足利市メガソーラー事業
	5 ジェンダー平等を実現しよう	5	男女共同参画週間事業 人権教育指導者養成講座		14 海の豊かさを守ろう	7	空き缶等のポイ捨て防止事業 出前講座
	6 安全な水とトイレを世界中に	4	水道事業経営戦略 水道週間ポスター・習字コンテスト		15 陸の豊かさを守ろう	12	クビアカツヤカミキリ防除対策事業 森林管理整備事業
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	11	地域エネルギー推進事業(ソーラークッカー) 家庭用廃食用油拠点回収事業		16 平和と公正をすべての人に	4	防犯カメラの設置・維持 市民大学あしかが学校
	8 働きがいも経済成長も	14	IT関連企業誘致活動事業 創業ステップアップ支援事業		17 パートナーシップで目標を達成しよう	21	地区防災計画策定促進補助金 防災情報発信体制強化事業
				合計		261	※複数ゴール事業含む

地方創生推進交付金活用事業

事業名	事業期間	R4計画額 (うち交付額)	R4実績額 (うち交付額)	差額 (うち交付額)	
里山環境を活かした持続可能なまちづくり事業	R3(2021)ー R5(2023)	12,884千円 (6,442千円)	10,185千円 (5,093千円)	2,699千円 (1,349千円)	
交付金の種別	総合戦略における基本目標				
横展開・単独	基本目標3「まちの魅力を高め、新しい人の流れをつくる」				
事業の概要					
人口減少、高齢化が顕著ながらも、美しい里山の原風景を残す市内北部山間地域において、集落支援員や宇都宮大学等と連携しながら、地区活性化の新たな担い手の発掘、育成に取り組む。そして農業体験や名物開発、空き家の利活用など、地域資源を最大限活かした活性化策を実施することで、自ら稼ぐ力を養い、移住者を呼び込む受け皿を整え、住民が生きがいを持って暮らせる持続可能な地区を目指す。					
重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値	R3(2021) 実績	R4(2022) 実績	R5(2023) 実績
足利・名草ふるさと自然塾運営協議会の新規参画者数	人	目標	3	6	10
		実績値	0	3	—
事業年間利用者数(体験プログラム、名草キャンプ場等利用者数等)	人	目標	500	750	1,000
		実績値	0	378	—
新名物年間販売額	円	目標	—	500,000	1,000,000
		実績値	0	656,000	569,910
名草地区への年間転入者数	人	目標	17	20	24
		実績値	14	19	—
令和4(2022)年度の取組					
<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じた農業・自然体験の受入れやSNSの活用による里山地域の魅力発信を行った。 名草キャンプ場のプレオープンと並行し、場内整備や広報活動を進め、令和5年度の本格オープンに向けた準備を行った。 地元産の生姜を活用した「名草米のしょうが粥」を開発した。 地区住民を対象とした空き家や暮らし、健康などに関する調査を行い、リノベーションなど様々な活用提案を行った。 里山地域活性化の推進に向け、拠点となる名草ふるさと交流館の運営管理等を行った。 					

▼宇都宮大学との連携事業



▼地元産の素材を活用した新名物



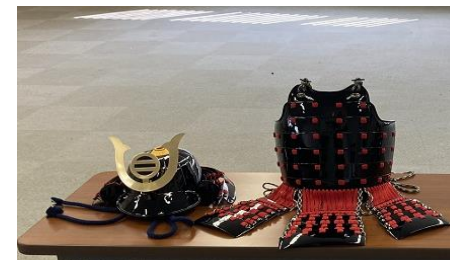
▼キャンプ場の様子



地方創生推進交付金活用事業

事業名	事業期間	R4計画額 (うち交付額)	R4実績額 (うち交付額)	差額 (うち交付額)		
「足利氏のふるさと」ツーリズム観光誘客促進事業	R4(2022)－ R6(2024)	12,000千円 (6,000千円)	9,947千円 (4,974千円)	2,053千円 (1,026千円)		
交付金の種別	総合戦略における基本目標					
横展開・単独	基本目標3「まちの魅力を高め、新しい人の流れをつくる」					
事業の概要						
日本の歴史の一端を担った「足利氏」発祥の地であることを前面に押し出し、足利氏ゆかりの寺社をつなぐモデルコースの作成や、教育旅行・校外学習の誘致、その効果的な誘客宣伝などを行い、歴史や足利氏に興味がある方にターゲットを絞ることで、コロナ禍において、大規模なイベントによる集客に頼ることなく、継続的に何度でも本市を訪れてもらう足利ファンを獲得し、観光客数の確保・増加を目指す。						
重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値	R4(2022) 実績	R5(2023) 実績	R6(2024) 実績	
観光客入込数	人	目標		5,660,000	5,760,000	5,860,000
		実績値	3,460,000	4,191,518	—	—
校外学習・教育旅行者数	人	目標		150	300	450
		実績値	0	306	—	—
足利市観光ボランティアガイド協会 会員数	人	目標		31	32	33
		実績値	30	26	—	—
足利氏関連新商品年間販売額	円	目標		0	250,000	500,000
		実績値	0	0	—	—
令和4(2022)年度の取組						
<ul style="list-style-type: none"> 旅行エージェントを招聘するモニターツアーを実施し、現状の課題把握と事業の磨き上げを行い、新たな足利氏ふるさとツーリズム日帰り周遊モデルコースを造成した。 足利氏ゆかりの寺社等に特化したパンフレットの作成や「足利氏」関連地場産商品を開発し、観光客受け入れ態勢の強化及び足利氏のふるさとツーリズムのPRを強化した。 関東甲信越地域における小中学生を対象とした校外学習・教育旅行先「教育旅行パンフレット」を作成した。 足利氏に対する理解を深め、市民ボランティアの育成を図るため、足利氏に関する研究を行っている大学講師等による歴史講座を実施した。 						

▼着付け体験用の甲冑



▼モニターツアーの様子



▼歴史講座



地方創生推進交付金活用事業

事業名	事業期間	R4計画額 (うち交付額)	R4実績額 (うち交付額)	差額 (うち交付額)	
日本一キラキラした高校生によるUIJターンプロジェクト	R4(2022)ー R6(2024)	9,436千円 (4,718千円)	6,787千円 (3,394千円)	2,649千円 (1,324千円)	
交付金の種別	総合戦略における基本目標				
横展開・単独	基本目標3「まちの魅力を高め、新しい人の流れをつくる」				
事業の概要					
移住・定住施策と教育・人材育成施策を掛け合わせ、学校の枠を超えた高校生クラブを結成し、地域に入っの課題解決に取り組み、地域の一人として何ができるかを自らの意志で考え、行動し、社会に貢献することを体感的に学ぶキャリア教育を実施する。そのことにより、高校生の将来的な定住やUターンを促進するとともに、地域を担う人材を育成する。					
重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値	R4(2022) 実績	R5(2023) 実績	R6(2024) 実績
高校生クラブ員数	人	目標	17	20	24
		実績値	14	22	—
高校生クラブによる実践件数	人	目標	1	3	5
		実績値	0	2	—
移住者交流会参加者数	人	目標	34	39	44
		実績値	29	18	—
相談事業を経た移住者数	円	目標	56	71	86
		実績値	41	52	—
令和4(2022)年度の取組					
<ul style="list-style-type: none"> 学校の枠を超えた高校生クラブがまちづくり活動を行うとともに、動画制作やSNS等を通じたクラブや地域の魅力発信を行った。 JR足利駅構内にある旧移住・定住相談センターを新たに若者の交流拠点として位置づけ、高校生クラブの活動拠点としても活用した。 東京都内にてイベントを開催し、ゲストスピーカーや地域おこし協力隊との交流や移住体験ツアーの報告などを通じた本市の魅力発信を行った。 東京とのアクセスのよい東武足利市駅構内に移住・定住相談センターを移設し、より効果的な情報発信ときめ細やかな移住相談を行った。 移住検討者向けマップの作成やホームページの運営、ふるさと回帰フェアへの出展を通じ、移住を促進した。 					

▼高校生クラブ(あしもり隊)



▼高校生クラブによるイベントの様子



▼移住・定住相談センター

